



KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリンググループ 2025年12月期 第1四半期決算

2025年5月13日

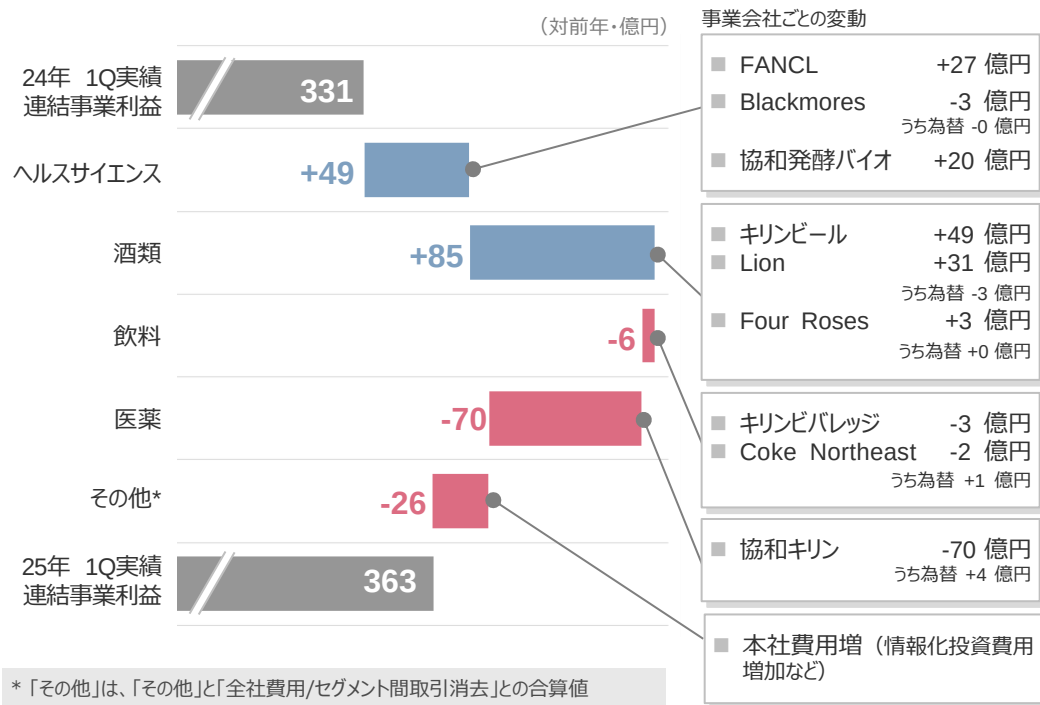
2025年度 1Q実績サマリー

(億円)	25年1Q 実績	24年1Q 実績	増減	%
売上収益	5,459	5,018	441	8.8%
事業利益 *	363	331	33	9.9%
税引前四半期利益	383	442	-59	-13.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	243	259	-16	-6.0%
期中平均株式数 (百万株)	809	809	0	0.0%
EPS (円)	30	32	-2	-6.0%

- 事業利益は、各事業の順調な進捗とFANCLの年初からの寄与により、計画・前年を上回って推移
- 円高方向への為替相場の変動影響や、前年に実施した海外子会社の資本構成見直しとその後の減資までの間に発生した保有外貨に対する受取利息の反動による影響等により、税引前四半期利益と親会社所有者四半期利益は前年を下回って推移
- EPSは、親会社所有者四半期利益の減少により対前年微減で推移

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出。

2025年度 1Q実績：各セグメントの進捗／ポイント



事業利益 為替感応度

USD (米ドル) +8億円/1円安

AUD (豪ドル) +4億円/1円安

ポイント

ヘルスサイエンス事業

- ▶ FANCLでは、紅麹問題の影響を受けた通販事業における定期顧客数が回復
- ▶ 協和発酵バイオは、アミノ酸事業等の譲渡に向けて、順調にプロセスを進行中

酒類事業

- ▶ キリンビールでは、3月の仮需影響が計画以上に発現。「晴れ風」は2月から広告出稿を強化したことで回復傾向
- ▶ Lionは、豪州において市場を上回って推移。利下げや政府の生活費支援政策による酒類消費への影響に注視

医薬事業

- ▶ KHK4083のPh3試験は順調に進捗。グローバル戦略品は前年を上回るも、研究開発費の計上が増加したこと等により減益

米国相互関税によるキリングroupへの影響について

- ▶ 米国の相互関税による影響について、2025年度1Qにおいては、影響は軽微であった
- ▶ 将来的な関税影響に関しては今後の動向次第ではあるが、現時点ではグループの事業に与える影響は大きくないと見込んでいる*

■ 今後影響が見込まれる主要なもの *

	想定影響	例	業績予想への影響度
米国内事業	● 米国外から輸入する原材料・容器資材 ● 米国から輸出する商品 ● 米国内物価上昇に伴う消費減退	▶ Lion北米クラフト：米国外から輸入するアルミニウム ▶ Coke Northeast：米国外から輸入する容器資材 アルミニウム等の調達価格に軽微な影響を見込むが、今後の影響額に応じて、価格転嫁やコストマネジメント等で吸収することを検討する	軽 微
米国外事業	● 米国への輸出 ● 米国から輸入する商品・原材料	(影響する規模等に照らして、特筆すべき事例はなし)	極めて 軽 微

■ 今後のリスク *

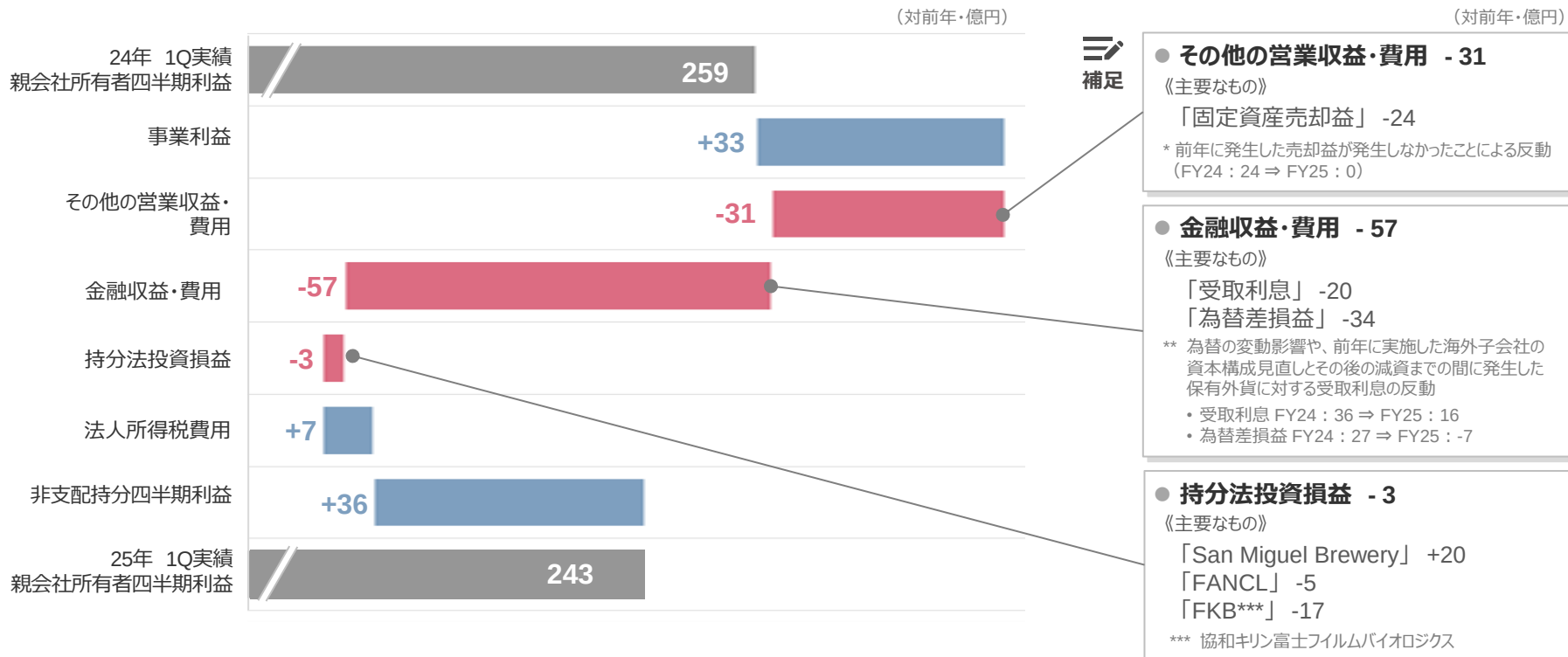
	想定影響	例	業績予想への影響度
米国外事業	● 米国への輸出	▶ 協和キリン：医薬品が相互関税の対象品目になった場合の米国子会社向けに輸出する医薬品	算出不能 **

* 本資料作成時点における情報に基づいて作成。

** 医薬品への課税有無、時期、対象範囲及び税率等が明らかでないため、現時点で影響度を算出することができない。

2025年度 1Q実績：親会社の所有者に帰属する四半期利益増減

- 親会社所有者四半期利益は、事業利益が増加したものの、その他の営業収益・費用および金融収益・費用が損方向に影響した結果、前年を下回って推移



Environment

「シャトー・メルシャン 城の平ヴィンヤード」が自然共生サイトに認定

- ▶ 「シャトー・メルシャン 城の平ヴィンヤード（山梨県）」が環境省の自然共生サイトとして認定。キリングroupとしては2023年に認定された「シャトー・メルシャン 梔子ヴィンヤード（長野県）」に続いて2事例目



詳細はこちら

Lionが異業種提携により持続可能なパッケージの変革に取り組む

- ▶ Lionはサプライチェーン・パートナー企業と共同し、「Stone&Wood」ブランドの缶に平均83%の再生アルミニウムを使用した持続可能な容器の開発に取り組む



詳細はこちら

Social

エレキソルトが第12回 技術経営・イノベーション大賞「選考委員特別賞」を受賞

- ▶ 明治大学の宮下芳明研究室との共同研究による「エレキソルト」*の開発・事業化と減塩推進が、塩分摂取量の削減や生活習慣病の予防に繋がる可能性があるとの評価を受けた



詳細はこちら

キリングroup×長野県上田市が相互人財交流を開始

- ▶ キリングroupと上田市は、「ワイン産業振興を軸にした地域活性化に関する包括連携協定」に基づく農業・商工・観光を連携させた新たな産業振興を図るために、人財交流を開始



詳細はこちら

* 微弱な電流の力で減塩食品の塩味やうま味を増強する食器型デバイス。

外部評価

2024年度 CDP気候変動・水セキュリティ最高位の「Aリスト」を獲得

- ▶ CDPが実施する調査で最高評価である気候変動「Aリスト」、水セキュリティ「Aリスト」を獲得



詳細はこちら

「ESG ファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門「金賞」受賞

- ▶ 第6回「ESGファイナンス・アワード・ジャパン」の環境サステナブル企業部門で「金賞」を受賞
- ▶ 情報開示の充実度が一定の基準を満たしている企業として「環境サステナブル企業」にも選定



詳細はこちら

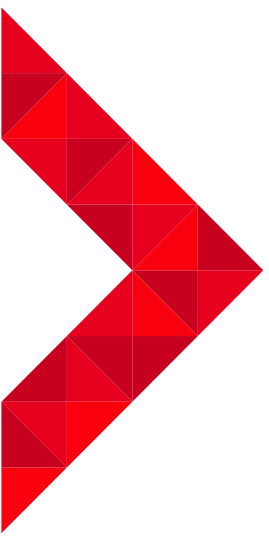
組織能力

2025年度 知財功労賞「特許庁長官表彰 知財活用企業(特許)」を受賞

- ▶ 社会課題を解決する技術を創出し、効果的な知的財産を創出・活用できる組織能力を獲得することで、経済的・社会的価値のある市場の創出・拡大を実現したことが評価された

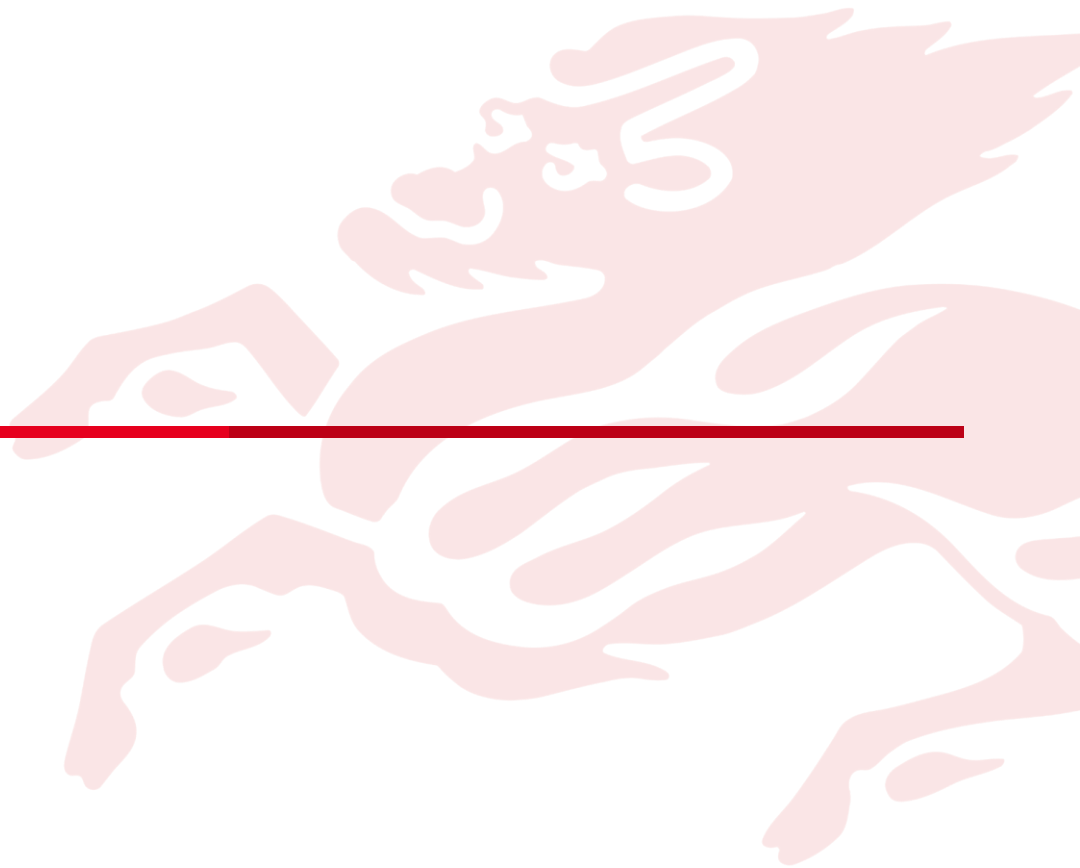


詳細はこちら



資料編

Joy brings us together



2025年度 1Q実績：セグメント別 売上収益

(億円)		2025年1Q実績	2024年1Q実績	増減	%
連結 売上収益		5,459	5,018	441	8.8%
酒類	麒麟ビール	2,490	2,382	108	4.5%
	Lion	1,535	1,406	129	9.2%
	うち豪州・NZ	675	696	-21	-3.0%
	うち北米クラフト他	457	480	-23	-4.7%
	Four Roses	218	216	2	1.0%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	61	62	-1	-1.5%
		219	218	1	0.4%
飲料	麒麟ビバレッジ	1,272	1,215	56	4.6%
	Coke Northeast	573	553	20	3.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	676	641	35	5.4%
		23	21	2	10.0%
医薬	協和麒麟	1,047	1,055	-8	-0.8%
	セグメント間取引消去	1,047	1,056	-8	-0.8%
		-1	-1	-0	—
ヘルスサイエンス	FANCL	608	319	289	90.5%
	Blackmores	270	—	270	—
	協和発酵バイオ	153	147	6	3.8%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	142	120	22	18.6%
		43	52	-9	-17.9%
その他		42	46	-4	-8.6%

2025年度 1Q実績：セグメント別 事業利益

(億円)		2025年1Q実績	2024年1Q実績	増減	%
連結 事業利益		363	331	33	9.9%
酒類	麒麟ビール	270	184	85	46.3%
	Lion	154	106	49	45.9%
	うち豪州・NZ	74	42	31	74.2%
	うち北米クラフト他	49	28	21	72.9%
	Four Roses	25	14	11	76.9%
	その他	26	23	3	12.0%
		15	13	3	19.5%
飲料	麒麟ビバレッジ	117	122	-6	-4.6%
	Coke Northeast	21	24	-3	-12.5%
	その他	93	95	-2	-2.4%
		3	4	-0	-10.7%
医薬	協和麒麟	96	165	-70	-42.1%
		96	165	-70	-42.1%
ヘルスサイエンス	FANCL	32	-17	49	—
	Blackmores	27	—	27	—
	協和発酵バイオ	9	12	-3	-26.1%
	その他	-3	-23	20	—
		-0	-5	5	—
その他		-1	-2	0	—
全社費用・セグメント間取引消去		-149	-123	-26	—

(億円)	25年 1Q実績*	[参考]	25年1Q 実績	24年1Q 実績	%
売上収益**	270	売上収益**	270	253	6.8%
化粧品(スキンケア)	153	化粧品 (スキンケア)	153	140	9.4%
サプリメント	102	サプリメント	102	98	3.9%
事業利益*** [事業利益率]	27 9.9%	[参考]		25年 1Q実績 地域別金額 対前年増減	
					%
			国内		0%
			海外		122%

* FANCLの連結取り込み開始は24年4Qのため、1Qから3Qまでの前年実績記載はない

** その他事業を含む

*** PPA(Purchase Price Allocation)による無形資産等の償却費を含む

売上
収益
(参考)

化粧品(スキンケア)事業：

▶ 「ファンケル」の国内は前年に日焼け止めの前倒し需要があったためハードルが高かったが、海外で前年から後ろ倒しした分の出荷があったことや、「アテニア」の好調により、全体として増収となった

サプリメント事業：

▶ 国内は前年に実施した大型施策の反動減収となったが、海外はセルアウトが好調に推移し、全体として増収となった

事業
利益
(参考)

▶ 売上収益の増加に伴う粗利の増加に加え、販促費の投下タイミングの影響もあり増益となった

※キリン連結取込前(日本基準・無形資産償却前)

トピック

- ▶ スクイズアウトによりFANCL株式を100%まで追加取得完了
- ▶ 期首より100%子会社として連結に取り込んでいる

豪ドルベース (million AUD)	25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益*	162	151	12	7.7%
豪州・NZ	72	68	4	6.1%
東南アジア・韓国	42	36	6	15.9%
中国	48	45	3	5.9%
事業利益** [事業利益率]	9 5.7%	12 8.0%	-3	-23.4%

* その他受託業務を含む合計

通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 25年1Q実績：94.36円(豪ドル)

** PPAによる無形資産等の償却費を含む

24年1Q実績：97.88円(豪ドル)

売上
収益

▶ 全体では、新商品の上市や適切なプロモーションの実施、各地域での値上げ等の取り組みの成果により、増収となった

- ・ 豪州・NZでは、値上げや昨年から好調なモメンタムが継続
- ・ 東南アジア・韓国：複数の主力商品の販売が好調
- ・ 中国：引き続き市場の競争環境は厳しいが、輸出チャネルにおけるディストリビューターとの取組拡大により増収を確保

事業
利益

▶ 事業利益は、昨年原材料費の大幅な高騰があったものの、昨年同期時点で保有する旧単価の在庫影響により、一時的に原価率が抑えられていた反動等で微減となった

(億円)	25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益	1,535	1,406	129	9.2%
ビール類計*	—	—	—	10.2%
RTD	—	—	—	8.1%
ノンアルコール飲料	—	—	—	8.9%
酒税抜売上収益	934	854	80	9.4%
事業利益	154	106	49	45.9%
[事業利益率]**	16.5%	12.4%		

* 2025年度よりカテゴリー開示は販売数量ベースから金額ベース（売上収益）の前年比へ変更

** 対酒税抜売上収益

24年1Q 事業利益 (億円)	106	主な内容
対前年増減		
酒類等 限界利益増	46	ビール類計 +39億 ビール類以外計 +8億 価格改定・品種構成差異等 △1億
原材料費減	4	市況影響等
販売費減	8	マーケ費減等
その他費用増	-9	経費増 他
計	49	
25年1Q 事業利益	154	

(千KL)	25年1Q実績	24年1Q実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
一番搾りブランド計	87	77	13.3%	15%
一番搾り計	74	62	19.2%	15%
晴れ風	14	9	52.7%	15%
淡麗グリーンラベル	34	30	12.7%	12%***
本麒麟	44	40	9.4%	12%***
氷結ブランド計	72	65	10.6%	11%

*** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②）合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載

売上
収益

- ▶ 4月の価格改定前の仮需の影響もあり、全カテゴリーが前年を上回り増収であった
- ▶ 主力の「一番搾りブランド」「淡麗グリーンラベル」は好調で市場を牽引した

事業
利益

- ▶ 仮需による数量増に伴う限界利益増に加え、市況影響による原材料費減などもあり、増益であった

豪ドルベース (million AUD)	25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益	716	711	5	0.7%
うち豪州・NZ	484	490	-6	-1.2%
うち北米クラフト他	231	221	10	4.7%
事業利益	78	43	35	80.7%
[事業利益率]	10.9%	6.1%		
うち豪州・NZ	52	29	23	79.4%
[事業利益率]	10.7%	5.9%		
うち北米クラフト他	26	14	12	83.5%
[事業利益率]	11.3%	6.4%		

通期予想レート：95.00円(豪ドル) / 25年1Q実績：94.36円(豪ドル)
24年1Q実績：97.88円(豪ドル)

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

24年1Q 事業利益	29
豪州・NZ 数量	-4
その他*	27
25年1Q 事業利益	52

* 本社コストは、豪州・NZに含む

販売数量前年比	
豪州・NZ・北米クラフト他合計	-1.5%
豪州のみ	-0.3%

豪州・NZ

売上収益

- ▶ 「Hahn」及び「Stone&Wood」の販売が前年を上回り好調に推移し市場を上回った
- ▶ 一方で、引き続き消費マインド、消費支出に影響を与える外部環境の影響を受けたほか、昨年のイースター特需の反動もあり、やや減収となった

事業利益

- ▶ 厳しい市場環境が続く中でも利益目標の達成を目指して、販売状況を加味した費用のコントロールを実施したほか、投下タイミングの影響もあり、増益となった
- ▶ 構造改革に伴う固定費削減も寄与し、増益を下支えた

北米クラフト他

売上収益

- ▶ クラフトビール市場が縮小する中、引き続き「Voodoo Ranger」ブランドの販売が堅調に推移したことや新商品の売上げが寄与したほか、為替の恩恵を受け増収となった

事業利益

- ▶ 販売状況を加味したコスト削減や、費用の投下タイミングの影響もあり、増益となった

(億円)		25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益		573	553	20	3.5%
ヘルスサイエンス飲料		94	80	14	18.1%
事業利益 [事業利益率]		21 3.6%	24 4.3%	-3	-12.5%
販売数量 (万ケース)		25年1Q実績	24年1Q実績*	増減	%
ブランド別	午後の紅茶	1,167	1,193	-2.2%	
	生茶	527	538	-1.9%	

売上
収益

- ▶ 価格改定によって単価が上昇し、増収となった

事業
利益

- ▶ 価格改定により限界利益が増加したものの、原材料費や販売費の増加により相殺され、やや減益となった

*プラズマ乳酸菌入り飲料等の一部商品について、「ヘルスサイエンス飲料」とする算出方法への変更に伴い、2024年1Qの数字を遡及修正しています。

USドルベース (million \$)		25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益		447	428	19	4.5%
事業利益 [事業利益率]		61 13.7%	63 14.8%	-2	-3.2%

通期予想レート：145.00円（米ドル） / 25年1Q実績：151.21円(米ドル)
24年1Q実績：149.88円(米ドル)

売上
収益

- ▶ 価格マネジメントによって単価が上昇し、増収となった

事業
利益

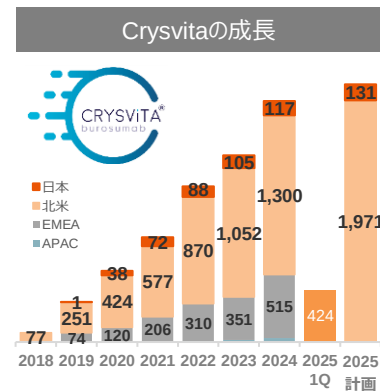
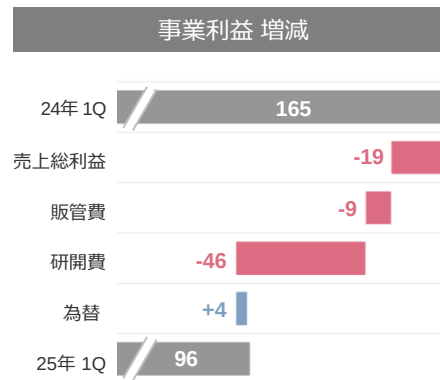
- ▶ オペレーション効率化に努め、人件費増などの影響を抑えたが、総コストの増加によりやや減益となった

(億円)	25年1Q実績	24年1Q実績	増減	%
売上収益	1,047	1,056	-8	-0.8%
事業利益 [事業利益率]	96 9.2%	165 15.6%	-70	-42.1%

(億円)	Crysvita クリースピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	25年1Q実績	24年1Q実績	25年1Q実績	24年1Q実績
日本	28	25	3	4
北米	241	228	69	63
EMEA	148	119	26	19
その他	8	6	—	—
合計	424	378	98	86

協和キリンの決算発表はこちら

<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



売上
収益

▶ 「Crysvita」と「Poteligeo」の販売が前年を上回り好調に推移したことや、為替影響は売上上のポジティブ要因な一方で、日本における薬価改定や、昨年のAPAC事業再編に伴う売上減の影響を受け、全体としてはやや減収となった

事業
利益

▶ 研究開発費の計上が増加したこと等により減益となった

2025年5月1日現在

	開発中の疾患 ^{*1}		承認予定年 ^{*2}	開発ステータス	市場規模 ^{*3}	患者さんの数 ^{*4}
Rocatinlimab KHK4083/AMG 451	中等度から重症のアトピー性皮膚炎		2026/2027	P3（グローバル）	★★★★★	16M
	結節性痒疹		TBD	P3（グローバル）	★★★★	1M
	中等度から重症の喘息		TBD	P2（グローバル）	★★★★★	13.5M
Infigratinib KK8398	軟骨無形成症		TBD	P3（日本）	★	6K
Ziftomenib	急性骨髄性白血病 (NPM1変異又はKMT2A再構成)	再発・難治	2025 (単剤、米国)	P2（米・欧）	★★★★	20K
		1次治療	TBD	P1（米国）		
KHK4951 tivozanib 点眼	滲出型加齢黄斑変性		TBD	P2（日・米）	★★★★	3810K
	糖尿病黄斑浮腫		TBD	P2（日・米）	★★★★	3470K
OTL-203	ムコ多糖症I型（Hurler症候群）		2029/2030	ピボタル試験 ^{*5} (米・欧)	★	生児出生の 10万人に1人 ^{*6}
OTL-201	ムコ多糖症IIIA型（Sanfilippo症候群A型）		TBD	POC試験 ^{*7}	★	生児出生の 10万人に1人以下

^{*1} 本資料の発表時点で開発中の疾患であり、最終的に規制当局から承認される適応症とは異なる可能性があります。^{*2} 最初に承認が期待される年です。^{*3} 「開発中の疾患」に対する全製品の総和を基に協和キリンが独自に推計した市場規模です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。★: 500億円未満、★★: 500億円以上-1000億円未満、★★★: 1000億円以上-5000億円未満、★★★★: 5000億円以上-1兆円未満、★★★★★: 1兆円以上 ^{*4} 協和キリン独自の推計値です。色付き部分はグローバル、それ以外は日本国内についての値です。 ^{*5} P3試験相当。 ^{*6} 「10万人に1人」はMPS-I全体の値であり、Hurler症候群はこのうちの60%になります。 ^{*7} P1/2試験相当。

財政状態計算書 キャッシュ・フロー計算書

(億円)	2025年1Q実績	2024年4Q実績	増減
資産合計	32,591	33,542	-951
資本合計	13,859	15,337	-1,478
負債合計	18,732	18,204	527
ROIC*	—	4.1	—
グロスDEレシオ	0.94	0.73	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	2.39	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.5	1.4	—
ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示			

(億円)	2025年1Q実績	2024年1Q実績	増減
営業活動CF	102	399	-296
投資活動CF	-454	-653	199
フリーCF	-352	-255	-97
財務活動CF	582	347	235

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出

** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。

*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出



財政状態計算書

▶**資産合計**：前年度末が休日であったこと等による営業債権及びその他の債権の減少等により、前年度末に比べ951億円減少して3兆2,591億円となりました。

▶**資本合計**：FANCLの追加取得に伴う非支配持分の減少及び為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の減少等により、前年度末に比べ1,478億円減少して1兆3,859億円となりました。

▶**負債合計**：新規発行によるコマーシャルペーパーの増加等により、前年度末に比べ527億円増加して1兆8,732億円となりました。

▶**グロスDEレシオ**：有利子負債が21%増加し、親会社の所有者に帰属する持分が6%減少したことから、前年度末から増加しました。

▶**PBR**：期末株価終値が1%と上昇した一方で、親会社の所有者に帰属する持分が6%減少したことから、前年度末から増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

▶**営業活動CF**：前年同期に比べ296億円減少の102億円の支出となりました。運転資金の流入は金融機関の休日影響等により149億円減少、法人所得税の支払額は75億円減少しました。

▶**投資活動CF**：前年同期に比べ199億円減少の454億円の支出となりました。有形固定資産及び無形資産の取得については前年同期に比べ150億円増加の370億円を支出、また、預託金の預入により77億円を支出しました。

▶**財務活動CF**：前年同期に比べ235億円増加の582億円の支出となりました。非支配持分からの子会社持分取得(FANCL追加取得)により782億円、配当金の支払により356億円、社債の償還により150億円の支出がありました。一方、コマーシャル・ペーパーの増加により2,019億円の収入がありました。

➤ キリンホールディングス IR情報



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/>

➤ キリンホールディングス Investor's Guide*



<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/guide/>

➤ キリンホールディングス 統合レポート



『統合レポート2025』は、5月末に発行予定

<https://www.kirinholdings.com/jp/investors/library/integrated/>

* 「Investor's Guide」は、投資家様向けにキリングループの経営計画、事業概要や各事業の保有意義などをまとめた資料です。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together